

# プログラム参加レポート

現代社会学科 2年

|   |  |                       |
|---|--|-----------------------|
| 1 | 渡航先  | インド                   |
| 2 | 渡航期間   | 平成31年2月19日から平成31年3月3日 |
| 3 | <p>今回のプログラムを終えて、以下のことについて報告してください。</p> <p>1) プログラムに参加した動機や目的は何ですか。</p> <p>私がインド研修に参加した動機や目的は大きく分けて2つあります。1つ目は、日本のニュースで児童労働、大気汚染、貧困問題など数多くの事柄が取り上げられています。それらの問題はどのような環境要因で引き起こされているのか。自らの目で確認したいと考えたからです。2つ目の動機はアジア美術に興味があったからです。私が好んで鑑賞していた日本の現代美術家である横尾忠則さんの「インドへ」という著書を読みました。この本が出版された1977年のインドの自然や宗教観を交えて書かれています。インドと日本の関係について調べてみると、横尾忠則さんがインドを訪れる以前から日本とインドは思想家や美術家の交流が盛んであったことがわかりました。このインド研修では多くの美術館を訪れるため、多くのことを学べるのではと思い参加しました。</p> <p>2) 訪問国と日本を比べたとき、特に印象に残ったことは何ですか。</p> <p>研修の期間中、インドでは4月からの総選挙に向けて選挙運動が行われていました。若者が大挙し、国旗を振りながらダンスミュージックに合わせ声を挙げており、日本の選挙とは全てが違い非常に驚きました。今回の研修では釈尊の最期の数カ月と同じルートを辿りました。そのため涅槃堂や仏塔などに足を運んだのですが、私達だけでなく、他国の他宗教の人々が多く見物に来ていました。そこでは管理人が居るにもかかわらず遺跡に金箔を貼る、拡声器を使いお祈りをする、涅槃像に布を掛ける、お札をばら撒くなどの行為が散見され、これらの行為が容認されていることに非常に衝撃を受けました。最初はショッキングな出来事としか捉えられずにいましたが、よく考えると日本では様々な国の様々な宗教が一堂に会す場所などありません。信仰が違う人々が同じ場所で祈りを捧げるというのは興味深いことであり、宗教や思想の多様性が受け入れられているインドだからこそ体験出来ることだと気づきました。</p> <p>3) これからの将来設計にあたり、自分自身の中で変わったと思えることや活かしていこうと思うことを書いてください。</p> <p>この研修では毎日様々な地域を巡り、その中でも都会と地方の格差に驚きました。シャーンティニケタンは他の地域に比べて自然が豊かな田舎町です。デリーではエスカレーターやエレベーターがあるのは普通ですが、今年から初めてシャーンティニケタンの駅にエスカレーターが作られました。実際に初めてエスカレーターに乗る年配の女性が周りの人に助けをもらっており、文明の進化に触れる姿を見て複雑な気持ちになりました。その際に、都会のシステム化されたものに無理して合わせるのではなく、その地域に合ったものを作ることが大切であると気づきました。これは他にも言えることだと思います。効率化や生産性ばかりを追い求め、日々「進化」し、社会は変化しています。進化することに追われて自分と向き合い「振り返る」必要性が忘れられているのではないのでしょうか。そんな中で自分を持ち生きていくことは難しいけれども、だからこそ「振り返る」ということが生きていく上で重要なことなのではないかと私は研修を通して思いました。また、インドで感じた多様性を認めることも忘れないでいたいです。</p> |                       |

# プログラム参加レポート

人間科学科 1年

|   |  |                                     |
|---|--|-------------------------------------|
| 1 | 渡 航 先  | インド                                 |
| 2 | 渡 航 期 間  | 平成 31 年 2 月 19 日 から 平成 31 年 3 月 3 日 |
| 3 | <p>今回のプログラムを終えて、以下のことについて報告してください。</p> <p>1) プログラムに参加した動機や目的は何ですか。<br/>今回の研修のテーマが「子どもの教育と支援」であったため、インドの子ども教育の方法や、支援の対象となる子どもとその支援方法が日本とどのように違うのかを学ぶことを目的に参加しました。理由は、それらについて学ぶことで、子どもに関する知識や理解を深め、今後授業で行われる小学校や幼稚園の実習に活かすことができると考えたためです。また、海外の子どもと接する機会はこれまでに一度も無かったので、研修を通してインドの子どもと会話したり、遊んだりすることで、より広い視野での子どもとの接し方を学ぶことができると思いました。</p> <p>2) 訪問国と日本を比べたとき、特に印象に残ったことは何ですか。<br/>子どもの物乞いが想像していたより多かったことが特に印象に残りました。止まっている車の周りでパフォーマンスをする子どもや、赤ちゃんを抱いた子どもなど様々いて、そういった子どもたちは数人だけかたまって活動していたため、物乞いの子どもたちの中にも組織的な団結があるのかと、疑問に感じました。また、シャーンティニケーターンでの学生ディスカッションの中で学生から、「物乞いをする子の中には学校に行きたい気持ちもあるけれど、物乞いでお金を稼げるため続けてしまう子もいる」ということを聞き、それまで、物乞いの子どもはみんな学校に行きたいと思っていて、そのお金を貯めるために物乞いをしていると思っていたので、子どもの中には楽に稼げるという理由で続けている子もいると知り、衝撃を受けました。</p> <p>3) これからの将来設計にあたり、自分自身の中で変わったと思えることや活かしていこうと思うことを書いてください。<br/>今回の研修では、児童養護施設での子ども教育や支援を通して、子どもにとって学習も大切だが、自分の存在を肯定できるようになる教育も大切であることを学びました。コルカタのマザーテレサ関連施設「子どもの家」も、デリーのDCCWのひとつである「パールナー」も、子どもを育てるうえで、その子どもの存在を認め、その子どもが必要とされているということを教えることを徹底していました。そのため、どの子どもも、表情が明るく、元気のある子ばかりでした。このことから、子どもと接するうえで、注意する際に「～しないで」「～は駄目」といった言葉をよく使ってしまうかもしれませんが、そういった否定的な言葉は極力使わず、言い方を変えて、その子を肯定する言葉を意識的に使っていこうと思いました。</p> |                                     |

# プログラム参加レポート

英語学科 2年

|   |   |                       |
|---|---|-----------------------|
| 1 | 渡航先   | インド                   |
| 2 | 渡航期間  | 平成31年2月19日から平成31年3月3日 |
| 3 | <p>今回のプログラムを終えて、以下のことについて報告してください。</p> <p>1) プログラムに参加した動機や目的は何ですか。</p> <p>去年のインド研修に参加して、実際に行ってみるとインドは楽しくて面白い国だと知ったからです。また今回の研修は子どもの教育と支援をテーマにしているため、児童福祉施設の見学と実際にその施設でボランティアをしている日本の方々に話を聞く機会がありました。今回の私の目的は、インドの子ども問題は日本とはどう違うのか、またどんな問題があるのかを学ぶこと。また私は特にアジアの国の海外ボランティアに興味があり、現地でボランティアしている方々に実際に話を聞いて、滞在するなかで大変なこと、海外ボランティアがどんな感じなのかを知ることが今回の研修の目的でした。そして、去年とは違う視点からインドの現状を知ることができ、ボランティアをしている様子を見ることができると、今回の研修旅行に参加をしました。</p> <p>2) 訪問国と日本を比べたとき、特に印象に残ったことは何ですか。</p> <p>私が今回の研修に参加して特に印象に残ったことは、インド人の様子です。駅や道を歩いている時やバスに乗っている時に色々なインド人を見かけました。例えば、お店でのんびりしているインド人、道端でトイレをしているインド人、駅で寝ているインド人、フレンドリーに話しかけてくれるインド人など日本と比較すると違うと感ずることがたくさんありました。私からみると、インド人は自由にのびのびと過ごしているように見えました。日本にいれば時間に追われていて、周りの人と同じ行動をとって、決まったルーティンで毎日を過ごすのがインドでは全く感じなかったです。しかも平日、休日でも同じ様子で、どの街に行ってもインド人の様子は変わらないと思いました。なので私にとってインドは、日本と違って自由な国であると今回のインド研修に参加して思いました。</p> <p>3) これからの将来設計にあたり、自分自身の中で変わったと思えることや活かしていこうと思うことを書いてください。</p> <p>マザー・テレサの関連施設の子どもの家に訪れたことと児童福祉施設でボランティアをしている方々に話を実際に聞くことができたことです。子どもの家は特別な支援が必要な子たちや健康な子たちがいて、外で遊具を使って遊んでいる様子やボランティアの人たちが楽しそうに子どもと触れあっている様子を見ると、私が思っていた以上に、明るい雰囲気施設だと思いました。そして、児童福祉施設ではどんな施設かを学び、また子どもたちと折り紙を通して触れあうことができました。特に言葉が分からなくても、気持ちや表情だけで伝わることをこの施設を訪れて感じました。今回訪れた施設を通して、私もこのような人と関わる海外ボランティアをしたいと思いましたし、今回の研修で経験したことをボランティア活動に活かしていきたいと思ひます。</p> |                       |

# プログラム参加レポート

人間科学科 1年

|   |   |                       |
|---|---|-----------------------|
| 1 | 渡航先   | インド                   |
| 2 | 渡航期間  | 平成31年2月19日から平成31年3月3日 |
| 3 | <p>今回のプログラムを終えて、以下のことについて報告してください。</p> <p>1) プログラムに参加した動機や目的は何ですか。</p> <p>動機のまず一つ目は、インドは、“行けば人生観が変わる”などと言われており、ビートルズやステイブ・ジョブズなどの多くの著名人に影響を与えた国であるということを知っていたため、インドには「人生で一度でもいいので行って見たい」と思っていたこと。そして二つ目は、筑紫女学園は宗門校であり、高校から仏教の授業で習っており聞いていた場所に足を運んで見たいと思っていた為です。目的は、一つは、日本では絶対に見られない光景を自分の目でしっかりと見て、日本の良さや日本にだけじゃ見えてこなかったものが日本に帰った時に見られるようになるとうこと。二つ目は、インドの街並みや食事、人々とのコミュニケーションを最大に楽しむことです。</p> <p>2) 訪問国と日本を比べたとき、特に印象に残ったことは何ですか。</p> <p>補整されていない道路や建物、とても使い易いとは言えないトイレなどを見て、そして利用して、日本では特に気にしていなかった部分に気付かされました。普段何気なく利用しているところでも知らない誰かが毎日汗水流して頑張っているから、快適に使えているのだな、と実感しました。そして、インドでは生野菜や生魚、生クリーム等が安心して食べられなかった為、日本の衛星レベルの高さも改めて再認識させられました。「動物と一緒に生きている感」が物凄かったです。日本じゃ、牛は歩いてないし犬はリードで繋がれているし、リスも孔雀も滅多に見られません。なので、動物と一緒に過ごしている感覚が極めて非日常的で印象に残りました。</p> <p>3) これからの将来設計にあたり、自分自身の中で変わったと思えることや活かしていこうと思うことを書いてください。</p> <p>南アジアに対するイメージが大きく変わりました。独断と偏見で、日本はインドよりも劣っておらず、インドはまだまだ発展していないと思っていたのですが、実際にはインドの方が発展している部分も多くあり、「百聞は一見に如かず」をいつも念頭に置いて、物事に真摯に向き合える人間になれたと思います。そして、環境・文化が違って同じ人間の心の温かさを感じることができた事で、自分も周りの人間に今まで以上に温かく接していこうと考えました。“無知の知”という言葉があるように、知らないということを知るととても良い経験をすることができた為、これを活かして、何事も恐れず、先入観なく考えていき自分の視野を広げて行こうと思いました。</p> |                       |

# プログラム参加レポート

英語学科 1年

|   |   |                       |
|---|---|-----------------------|
| 1 | 渡航先   | インド                   |
| 2 | 渡航期間  | 平成31年2月19日から平成31年3月3日 |
| 3 | <p>今回のプログラムを終えて、以下のことについて報告してください。</p> <p>1) プログラムに参加した動機や目的は何ですか。</p> <p>私はもともと国外旅行に興味があり、特にインドは自分の世界観が変わるほどの魅力で溢れている国だと認知していたので人生で一度は行きたいと心に決めていたため、今回のプログラムは良い機会だと思い参加した。また、今回のプログラムは観光がメインではなく、仏教にまつわる仏跡を巡ったり、児童養護施設を見学したり、現地の学生と交流する機会もあったため一般的な旅行では体験することのできないインドを、たくさん体験することが出来るだろうと考えたからだ。</p> <p>2) 訪問国と日本を比べたとき、特に印象に残ったことは何ですか。</p> <p>私がインドと日本を比べたとき、特に印象に残ったことは街並みだ。インドでは田舎も都会も関係なく牛が道端にいることが当たり前で、日本というコンクリートジャングルで生まれ育った私には、はじめは衝撃的で見かけるたびに驚きの反応を示してしまったが、日数を重ねるにつれ牛や山羊、野良犬が人間と近い距離感で生活しているということが私の中でも当たり前になっていった。また住居も様々で国土の狭い日本では北から南まで多少の違いは生じるもののほとんどの家が同じような素材で作られ、同じようなかたちをしている。しかしインドでは廃墟かと思うような建物が建ち並ぶ街や、英国統治下の時代を感じさせる建造物が多い街、気候に適した素材を用いた住居が立ち並ぶ村など、その街や村の色がそのままに存在していることを嬉しく思った。日本にも日本家屋や合掌造の家など、時代を感じさせるものや地方独自の建造物もたしかに存在するが、そのほとんどが観光用であり、日常生活から離れたものとして存在している。それにひきかえインドでは、都市部では都市化が進みあまり特色のない街並みも存在するが、多くの地方でありのままの姿で人々が生活し、画一化されていない風景が広がっており、日本の街並みを見て寂しさを覚えてしまうほどに魅力的な街並みだった。</p> <p>3) これからの将来設計にあたり、自分自身の中で変わったと思えることや活かしていこうと思うことを書いてください。</p> <p>今現在、自分の置かれている環境がどれほど恵まれているのかが痛いほど理解できた。たしかに恵まれているかいないかは自分のものさしで測ったものであり十人十色に幸福度の測り方は存在するが、大学に通わせてもらっていること、趣味や好きなことをさせてもらっていること、そして今回のプログラムに参加させてもらったこと、全てのことに感謝する心はありながらも、心の片隅では親から子が受ける当たり前の施しだと思っている部分も少なからずあった。しかしインドの田舎であろうが都会であろうが物乞いの子は存在し、私たちに何かを訴えていた。私が物乞いをしている子どもたちの年齢のときは、小学校に通い放課後は習い事に行き、家に帰ると温かい夕食が待っている生活を送っていたし、それは当たり前のものだと思っていた。もので溢れかえっている日本で日常に感謝することを忘れがちだが、インドで見た風景をしっかりと胸に刻んでこれからの人生を歩んで行きたい。</p> |                       |

# プログラム参加レポート

日本語・日本文学科・2年

|   |  |                                     |
|---|--|-------------------------------------|
| 1 | 渡 航 先  | インド                                 |
| 2 | 渡 航 期 間  | 平成 31 年 2 月 19 日 から 平成 31 年 3 月 3 日 |
| 3 | <p>今回のプログラムを終えて、以下のことについて報告してください。</p> <p>1) プログラムに参加した動機や目的は何ですか。</p> <p>私が在学している筑紫女学園大学は仏教系の大学であり、1年生の頃から仏教のことについて学習する機会がありました。先生方から仏教の成り立ちや歴史などを教わり、今もとても興味深く感じています。そのような講義を学ぶ中で、授業の合間に話してくださるインド研修のお話を聞いたり、学校の張り紙などを目にしていつかみたいと思ったことがきっかけです。</p> <p>多くの場合、インドに行こうと思う人は少ないかもしれませんが、しかし、このプログラムでは、事前にしっかりとインドについて、仏教や宗教について学習し、準備すること。また、学校の方針の下、先生方やしっかりとサポートしてくださる方々と同行し、安全面でも学習面でも安心感のあるプログラムと打ち出されていたので、これは筑紫女学園ならではの、またとない機会に恵まれたものだと考えました。</p> <p>2) 訪問国と日本を比べたとき、特に印象に残ったことは何ですか。</p> <p>特に印象に残ったのは、物乞いです。日本ではまず見かけることこそ少ない物乞いが、インドに行ってみると町へ一歩でただけですぐ目にするようになる状況に驚きました。いくら事前に学習していたとは言っても、やはり机上と実際に体験するのではまったく違うと言うことを思い知りました。また、街中を歩くと右から左からと子供たちや老人、幅広い世代の貧しい人々が手を差し出し、ものを強請る状況に最初は不安と恐怖を覚えました。知らない土地へ来て、知らない人々からものを乞われるという体験が初めてだったことが原因でもあります。</p> <p>その一方でその貧困層と言える人々と、日本に暮らす我々と比較すると、どうしても我々の方が恵まれていると感じることが多々ありました。この感情をこれからどのように飲み込み、考えていくことが大切だと感じました。</p> <p>3) これからの将来設計にあたり、自分自身の中で変わったと思えることや活かしていこうと思うことを書いてください。</p> <p>実際にインドに行ったことで、その土地の匂いや雰囲気、町の状況などを生に体験することができとても有意義な2週間を過ごすことができたと感じました。行く前はスリなどが多く、危険で怖い場所と思っていましたが、実際に行ってみると怖いことには変わりはないものの、その分その国の魅力を発見することができ、怖いだけではないことを学ぶことができました。また、言葉が通じずとも、目を見て、身振り手振りでもいいからコミュニケーションをとれば、相手に言いたいことが伝わるということを研修中何度も痛感しました。この経験は日本でも同じことが言えると思います。帰国後、子ども食堂を体験し、子どもたちと交流をする際、以前であれば話の切り口がわからずあまり話ができなかったかも知れませんが、なんでもないことでも話ができる、少しずつコミュニケーションを取れることを改めて認識することができました。</p> |                                     |

# プログラム参加レポート

現代社会学科・2年

|   |   |                         |
|---|---|-------------------------|
| 1 | 渡 航 先   | インド                     |
| 2 | 渡 航 期 間   | 平成31年2月19日 から 平成31年3月3日 |
| 3 | <p>今回のプログラムを終えて、以下のことについて報告してください。</p> <p>1) プログラムに参加した動機や目的は何ですか。</p> <p>宗教的観点から見たインドの食生活や文化の違いを感じ、日本では経験することのできない宗教と表裏一体の生活がどういったものなのかを目で見て実際に肌で感じてみたいと思い参加をした。それに加えて、首都や有名な観光地だけではなく、インド全土を回ることができそれぞれの地域による人々の雰囲気や食べ物、生活習慣の違いを学ぶことができると考えたためこのプログラムへ参加した。またこのような機会がない限りインドの代表的ではない都市を訪問するという考えは自分の中にはなかったのでこのプログラムに出会えたことは私にとってとても重要だったと思う。そして私は今まで他の国の同年代の人々と交流する機会をあまり持ってこなかったので、プログラムに組み込まれていたインドの学生との異文化交流を特に体験してみたかったのでこのプログラムへ参加した。</p> <p>2) 訪問国と日本を比べたとき、特に印象に残ったことは何ですか。</p> <p>普段の生活に宗教色が色濃く表れていたということが印象的であった。昼間にビルの屋上で礼拝を行っている人を見て、このような光景を日本で見たことがなかったので衝撃的であり、どのような状況であっても宗教を基に生活を送っているのであると感じた。また、食文化についても驚く点があった。宗教上の規則により牛を食べてはいけないという知識を持っていたが、本当に牛を口にしていなのかという疑問を持ちインドへ行ったのであるが、実際に2週間のインドでの生活を終え、それを確認することができた。宗教を強く意識せずに生活を送っている私にとってはすべてが新鮮であり、またインド人にとっての宗教の存在の大きさを確認することができた。これにより、インドと宗教は切っても切れない関係であると感じた。</p> <p>3) これからの将来設計にあたり、自分自身の中で変わったと思えることや活かしていこうと思うことを書いてください。</p> <p>今回のプログラムに「子ども」というテーマがあった。貧困や貧富の格差によって生まれるストリートチルドレンについて事前学習をしたのであるが、このようなテーマが設けられていなければそれらについて興味・関心をもつことはなかったであろうし、また勉強をする機会もなかったのではないのかと思う。世界中で色々な問題が起こっているが、まずは関心をもつことが問題解決への第一歩だと考えている。私は、メディアについての勉強をしているので、それを活かし大勢の人が関心をもつことができるような情報を発信できる人になりたいと強く感じた。また、インドの人々は多種多様な考え方を受け入れ、相手を否定しないという印象であったのこれを活かすことができれば皆が暮らしやすく、より良い生活を送ることができるのではないのか。</p> |                         |

# プログラム参加レポート

現代社会学科・2年

|   |   |                       |
|---|---|-----------------------|
| 1 | 渡航先   | インド                   |
| 2 | 渡航期間  | 平成31年2月19日から平成31年3月3日 |
| 3 | <p>今回のプログラムを終えて、以下のことについて報告してください。</p> <p>1) プログラムに参加した動機や目的は何ですか。</p> <p>以前から海外、特にアジアに興味があり、学生のうちに長期の海外研修に参加したいと考えていたため。それに加え、インドの映画や芸術、建築物などインド文化にも興味があったため、直にインドの文化などに触れることによってそれらの理解が深まるのではないかと考えたため。</p> <p>また、私の通っている筑紫女学園大学は仏教校であり、仏教のルーツであるインドで様々な仏教関連施設を訪ねることは仏教や学校の方針をより深く知ることができるのではないかと考えたため。</p> <p>2) 訪問国と日本を比べたとき、特に印象に残ったことは何ですか。</p> <p>日本では相対的貧困という目に見えにくい貧困に陥っている人が多いことに対し、インドでは物乞いをしたり、路上で生活していたりする絶対的貧困であろう人々が大勢見かけられ、貧困の問題を強く感じた。</p> <p>インドでは交通量が多いにも関わらず、交通整備があまりされていないため、交通ルールがあいまいであること、クラクションの用途などの交通面での日本との違いも印象に残った。</p> <p>3) これからの将来設計にあたり、自分自身の中で変わったと思えることや活かしていこうと思うことを書いてください。</p> <p>インドの学生とディスカッションをした時に、インドの学生のほとんど全員が自分の意見を持ち、積極的に発言していたのを見て、消極的な日本の学生とは全然違うことが分かり、これからさらにグローバル化していくと考えられる日本社会ではもっと積極的に物事に参加していく姿勢が大切だと感じた。そこから、学校の授業内やアルバイト先などで自分がどう積極的に動いていけるか、今までよりもより考えて動いていきたいと考えた。</p> |                       |



# プログラム参加レポート

人間科学科・1年

|   |   |                       |
|---|---|-----------------------|
| 1 | 渡航先   | インド                   |
| 2 | 渡航期間  | 平成31年2月19日から平成31年3月3日 |
| 3 | <p>今回のプログラムを終えて、以下のことについて報告してください。</p> <p>1) プログラムに参加した動機や目的は何ですか。</p> <p>お釈迦様がお生まれになり、実際に教えを説かれた場所として、一度は訪れてみたいと考えていたから。さらに、発展途上国として大きな発達をしている国である一方で貧困や格差の問題、子供達の貧困など沢山の問題を抱えている国として、どのような状況なのかを自分の目で確かめたいと考えたため。</p> <p>また、発達心理学について興味を持っており、心理を専攻しているため、日本以外の国における幼児期の教育や孤児院の状況などに関心があった。これらの目的を達成するために参加した。</p> <p>2) 訪問国と日本を比べたとき、特に印象に残ったことは何ですか。</p> <p>一番印象に残ったことは、都市や人によって貧富の差がとても激しいことだ。狭い範囲で発展している所とそうでない所の差がとても大きい国だと思った。これが発展途上国の特徴なのだなと感じた。</p> <p>また、子どもへの支援や施設に力を入れているなど感じた。子どもの施設に多くの人を動員していたり、生涯にわたり支援する施設もあるなど充実していたりしていると感じた。このことから思った日本との違いは、力を入れている福祉の内容に違いがあることである。日本は比較的高齢者の支援に力を入れていると感じるが、インドでは子どもの支援に力を入れているなど感じた。</p> <p>3) これからの将来設計にあたり、自分自身の中で変わったと思えることや活かしていこうと思うことを書いてください。</p> <p>私自身一番変わったと思うのは、価値観である。今までは、人から聞いた話や間接的にみた話を鵜呑みにし、それを真に受けていたが、実際に訪れると聞いたことと違うこともあり、自分の目で確かめることが大切だと感じた。このことから、大事なことは自分の目で確かめることを忘れないでいたいと思った。</p> <p>また、インドにも日本にもそれぞれに子どもやその他の課題があることが分かった。今まで先入観によりインドの方が恵まれていないなど思っていた部分があったが、そのことにも疑問がうまれた。これらの課題や疑問を解決するにはどうしたら良いのあを今後考えて言いたいと思った。</p> |                       |

# プログラム参加レポート

日本語・日本文学科・2年

|   |  |                       |
|---|--|-----------------------|
| 1 | 渡航先  | インド                   |
| 2 | 渡航期間   | 平成31年2月19日から平成31年3月3日 |
| 3 | 今回のプログラムを終えて、以下のことについて報告してください。  |                       |
|   | 1) プログラムに参加した動機や目的は何ですか。<br><br>今回このプログラムに参加した動機は、大きく二つある。一つ目は、仏跡に興味があったこと、そして二つ目がニュースでも取り上げられる頃が多くなった子供の人権問題に関心があったからである。日本でも児童虐待、育児放棄など多くのことが問題になっている。では、海外では一体どのような活動が活発であるのか。また、どれくらい発展していて、人々はどのように関心を持っているのかを知りたいと思い、今回のプログラムに参加した。  |                       |
|   | 2) 訪問国と日本を比べたとき、特に印象に残ったことは何ですか。<br><br>インドといえば、発展途上国でストリートチルドレンのイメージが強くあり子供に対する支援はあまり発達していないのではないかと考えていた。しかし、孤児院の勝手なイメージとして暗いのかと思えばそうではなく、インドで孤児院での子供達の様子を見れば大変生き生きしていたのが印象的だった。最近ニュースでも子供に対する虐待を耳にする事も多いが、インドで出会った子供達は物乞いをしている子供達が元気に笑っているのを見て、知らぬ間に日本の方が発展していると思い込んでいたのだと衝撃を受けた。本当の意味で豊かなのはインドなのかもしれない。実際に現地に行き学んだからこそ感じられた事であると思う。 |                       |
|   | 3) これからの将来設計にあたり、自分自身の中で変わったと思えることや活かしていこうと思うことを書いてください。<br><br>インドで孤児院や物乞いの人々を見る中で自分の無力を感じる事も多くあった。しかし、何も知らずとせぬにいた頃より関心を持つことによって、自分の物差しがいかにか身勝手であったかを理解できた。関心を持つことによって視野が広がったように思える。私一人に出来ることは少ないかもしれないが、人々に関心を持ってもらう手伝いなら出来るのではないだろうか。自分が体験して感じたことを自分の中だけで終わらせるのではなく、自分から発信して行きたいと思う。  |                       |

# プログラム参加レポート

人間科学科・2年

|   |  |                       |
|---|--|-----------------------|
| 1 | 渡航先  | インド                   |
| 2 | 渡航期間   | 平成31年2月19日から平成31年3月3日 |
| 3 | <p>今回のプログラムを終えて、以下のことについて報告してください。</p> <p>1) プログラムに参加した動機や目的は何ですか。</p> <p>私にとって今回のインド研修は2度目となります。なぜ2度も連続して参加したのかとといいますと、去年のインド研修が自分の人生観を広げてくれたからです。元々海外に興味がある自分ですが、初めてインドに行き、インドの文化や習慣、仏跡、世界遺産などを自分の目で見て異文化体験の大切さを感じました。しまいには、去年のインド研修後も自分なりにインドについての興味、関心が高まり、進んで調べることが増えるようになりました。今回のインド研修の目的は、物乞いの子どもや親の様子をきちんとこの目で見て現実をしっかりと受け止めることとインドの児童養護施設の実態について知ること、そして、裏社会に巻き込まれた孤児の現状についての情報を得ることでした。今回の研修を通して3つの目的が果たせられたので個人的には今年も充実した2週間となり、とても意義深いものとなりました。</p> <p>2) 訪問国と日本を比べたとき、特に印象に残ったことは何ですか。</p> <p>目的にも挙げていましたが、まず、児童養護施設の実態についてです。日本では、近年児童虐待の子ども達が施設に預けられるケースが多いですが、インドでは児童虐待がとびぬけて多いのではなく、様々なケースがあることが分かりました。また特別なケアが必要な子どもたちには1対1のマンツーマンで専門の職員が対応していると聞き、衝撃を受けました。日本では職員不足も問題視されており、1対1の対応は中々取れてないので、ケアの体制が充分でないことに気づかされました。他にも現地の方に聞いていくと、日本では小さい子どもを連れて外に出ると気を遣う親が多いですが、インドではそういう事はほとんどなく、寧ろ子どもが外で痲癩を起こすと、たまたま近くにいた他人の方が積極的に子どもをあやかしたりするというのを聞き、日本の子育てに対する社会の考えが狭いと感じました。現代の日本は以前に比べて家族が孤立したり、地域が希薄化したりして子育てがしにくい状況です。それに比べてインドは嫌でもコミュニケーションをとらないといけない状況であり、地域で支えあいながら生活しているので、日本もインドを見習うべきだと感じました。</p> <p>3) これからの将来設計にあたり、自分自身の中で変わったと思えることや活かしていこうと思うことを書いてください。</p> <p>去年も同じことを思いましたが、インドから帰ってきてまず思うことは、日本のお風呂やトイレに感謝の気持ちを持つようになることです。また、泣きながら物乞いをする子たちを目の当たりにして、何もできないと実感しています。しかし、その中でも自分なりにできることとして考えられるのは、たまたま日本の家庭に生まれ、恵まれた環境で育ってきたのだと実感し、与えられた環境に感謝していくことだと思います。だからこそ、これからも、このことを忘れずに日々の生活を過ごしていこうと思います。そして、日本では同調社会ですが、インドではカースト制度の名残から違いを当たり前として捉えています。日本では普通から離れていくとおかしいやかわいそうなどと評価され、皆と同じことが正しいとされているが為に違いを認められない風習があるように感じられます。しかし、私は相手の意見をまず聞き色んな人の考えを知り、違いを認められるような女性になりたいと思いました。</p> |                       |

# プログラム参加レポート

人間科学科・4年

|   |  |                       |
|---|--|-----------------------|
| 1 | 渡航先  | インド                   |
| 2 | 渡航期間   | 平成31年2月19日から平成31年3月3日 |
| 3 | <p>今回のプログラムを終えて、以下のことについて報告してください。</p> <p>1) プログラムに参加した動機や目的は何ですか。<br/>今回参加した目的は、インドの現状について知り、新たな魅力を見つけることです。<br/>今回の旅の大きなテーマとして『インドの児童について』というものがあり、現地の学生や児童養護施設などで、子どもたちの今について話を聞く機会がありました。<br/>児童労働や孤児など、ショッキングな内容もありましたが、同時にそれらを少しでも良くするために活動している人々がいることも知りました。また、今回が3回目となるインド訪問でしたが、何度インドに来てても、毎回新たな魅力を発見することができました。</p> <p>2) 訪問国と日本を比べたとき、特に印象に残ったことは何ですか。<br/>インドは日本のように、国民全てが平等とは言いきれません。しかし、現地の人々と触れ合う中で、そのことをただ嘆いて諦めるのではなく、少しでも良い方に行くように、必死に生きていると感じました。それは、カーストに関係なく、インド人全てに共通することではないかと思います。また、困っている人を見捨てるのではなく、たとえ他人でも手を差し伸べる優しさやあたたかさがあると強く感じました。<br/>比較的不自由なく暮らせる日本と違い、生きることに貪欲でそれでいて、他人をしっかりと尊重しているという印象が強く残りました。</p> <p>3) これからの将来設計にあたり、自分自身の中で変わったと思えることや活かしていこうと思うことを書いてください。<br/>今回のインド研修を通して、自分のことは自分の力や努力次第で、簡単に変えることが出来ると改めて思いました。それは、当たり前なことではありますが、誰もが当たり前すぎてできていないことでもあると思います。インドで現地の人々と触れ合い、自分がいかに恵まれており贅沢なのかを痛感しました。<br/>しかし、彼らと同じように生活をしていけば、彼らのような生き方ができるとは限りません。私には私の、彼らには彼らの生活があり人生があります。彼らと同じ努力をするのではなく、自分にあった努力をし、自分の果たすべきことをしっかりとやりきることで、よりよい人生を送れるのではないかと思います。</p> |                       |